

## 式 辞

令和三年度畿央大学卒業証書等授与式において、それぞれの証書を授与される卒業生、修了生の皆様誠におめでとうございます。

また、これまで励まし支えてくださったご家族の皆様にもお祝いと感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

卒業される皆様にとって一生の思い出となる式典は、新型コロナウイルスの蔓延防止に協力するため、全員が一堂に会して行う形では行えませんでした。皆様のために心のこもった式になるよう教職員や関係者の皆様にご協力・ご尽力いただきましたことを、まず初めに厚く御礼申し上げます。

卒業される皆様は、入学されたころに持っておられた将来への夢がその実現に向けて具体的になり、今日はその夢に向かって歩み出す出発の日となりました。在学期間中に夢の実現への道筋をつけることができたのは、これまでの皆様の努力と研鑽によることは勿論ですが、先生方のご指導と職員の方々のご支援、そして切磋琢磨した学友の皆様がおられて、初めて達成できたことであることを深く心に刻んでいただきたいと思います。

さて、卒業される皆様が歩み出される社会は、世界各国が巻き込まれた政治経済体制の大混乱の中であって、どのような未来社会になるのか、まったく先が見通せない状況にあります。

よりよい未来社会の実現が期待できるのか、地球環境や人類の存亡が危機に瀕する方向に向かうのか、緊張をもって各国の状況を見守らざるを得ません。

今日卒業される皆様は、現時点では先が見通すことが難しい社会で、その社会の将来を築き、活躍される世代です。皆様がこれから果たさせる役割に大きく期待いたします。

そのような社会に皆様を送り出すにあたり、次のような姿で新しい社会を歩んでいただきたいと思っています。

一番目は、「生涯にわたり、学び続け、成長する」という、「個人としての学びの姿」です。

二番目は、「他者を尊重し力を合わせ協働し、変化する社会を生きる」という、「社会的存在としての生きる姿」です。

三番目は、「人類の社会、日本の社会の維持・存続に関心をもち参画する」という、地球規模のことに関心を持つ、「知的存在としての人間としての姿」です。

これらについて、少し説明いたします。

第一番目は、「生涯にわたり、学び続け、成長する」という、学びの姿です。

皆様は、本学において専門分野の知識と技術、さらに教養も含めた「知」を学ばれましたが、その学びについて、強調しておきたいことが三つあります。

一つ目は、知識・技術を体系的な体系として捉える視点を持っていただきたいということです。専門分野の知識内容は、相互に関連しています。知識内容の関連が分かると、その分野の専門知識を体系的に理解することができ、足りない部分やさらに追加が必要な拡がりが見えてきます。他の人に、理解していることを説明できるようになります。次々と学ぶことが楽しくなります。知識・技術を体系的に把握できていることは、学習の基礎であり、出発点です。本学で学んだことを体系的な視点を意識して見直してください。

二つ目は、知識・技術を「学ぶ」姿勢について、「分かる」ということを重視していただ

きたいということです。知識や技術は、人類の文化の歴史の中で先人たちが見出し、形にしてきたことです。知識・技術を学ぶ際に、なぜそうなのかと考え、理解し身につけることが必要です。そのためには、この知識や技術は、「何なのか」という疑問を常に持ち、深く考え続けること、「哲学する」ということが重要です。

こういうことだったのかと、分かることは楽しいことです。そして、次のさらなる疑問に繋がっていきます。この繰り返しにより、知識・技術の「深い理解」を得ることができます。

三つ目は、本学で学んだ知識・技術を大切にし、それらを基に、常に最新の知識と技術を身につけるように、「知」のアップデートを、心がけていただきたいということです。今後、仕事の中では、常に新しい情報を追加し、知識・技術の財産を増やしてください。それらを「成長する個人の知的財産」としてアップデートしながら大切に育ててください。

知識・技術の体系的把握、疑問を持つことによる「深い理解」、そして追加更新し続ける常に最新の知識と技術、これらを皆様のお一人おひとりが持たれることが学びの姿勢として重要と考えます。

つぎに、第二番目の、社会の中での、他者ととともに生きる姿についてです。

コロナ禍の中で他者と距離を置かざるを得なくなったことで改めて他の人との繋がりを明確に気づけたのではないのでしょうか。親兄弟、家族、友人、知人、大学の教職員、地域の人たち、ネット上の知人などとの繋がりで。

私共が生活する社会はお互いに繋がっている個人と団体、考え方の異なる人たちで成り立っています。その社会生活の中で起こる問題や課題を、関係する人たちの中で力を合わせ、何らかの解決に向かうためには、よく考えたうえで、分かりやすく説明し、上手にコミュニケーションすることが必要になります。

よりよく考えるには、考える筋道をちゃんと立てる必要があります。このときに、他の人も納得できるような順序だった考え方は、一般的には「論理的な考え方」、「論理的思考」と言われています。

この論理的に考えることは、問題・課題について自分なりのイメージを明確に持てれば難しいことはありません。そのうえで、他の人が考えていること、問題についてその人がイメージしているであろうことを想像できれば、このことが上手なコミュニケーションにつながります。

論理的に考え上手にコミュニケーションするという、他者ととともに生きる姿を保つことにより、未来社会の中で専門知識を活かし社会に貢献できる豊かな人生が期待できます。

最後に三番目は、他の生物とは異なる知的な存在としての、人間の姿についてです。

私共は、目の前に見える空間の中のものだけでなく、時間の流れの中で、自分の存在について、どこから来たのか、どこへ行くのか、過去・現在・未来、これらについて思いめぐらすことができます。目の前に具体的なものがないですから想像すること、イメージを描くことが必要です。想像力は鍛えれば広がります。

宇宙の始まり、生命の誕生、人類の進化など、今まで先人が発見し蓄積した知的なことは、今ネットを通してスマートフォンで容易に知ることができます。さらに、世界各地の歴史的遺産についての映像からは、人類が築いてきた多様な文化や芸術を知り、日常生活の中では出会うことのない美しい映像を見ることができます。

このような映像を通して、私共が生きている人類の社会の持続にも関心を持ってください。人類の社会は地球上の自然環境を変化させることにより発展してきましたが、その活

動により自然環境が急速に変化しつつあります。さらに経済格差の拡大や人口問題でも、地球規模の諸問題に直面しています。

想像力をたくましくし、未来社会の中で、その問題解決にそれぞれの考えに基づいて参画されることを期待いたします。

以上、卒業される皆様への期待を、建学の精神「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の、「知をみがく」に焦点を合わせ、論理的思考とコミュニケーション力も育み「知」を磨き続けられることへの期待を述べました。

建学の精神の「美をつくる」は、美しきものへの憧れを持ち続け、人に感動を与える具象的なもの・抽象的なことを作り続ける生き方を示しています。「美をつくる」ことも追求されることを期待いたします。

そして、「知をみがく」「美をつくる」という生き方に重ね合わせて、人の世の中で他者を思いやり、よりよい社会を作ることを通して、皆様が持つておられる「徳」を伸ばされることを期待いたします。

畿央大学が社会から評価を得られるのは、卒業生の皆様の活躍、社会への貢献によるものです。皆様が畿央大学の卒業生として誇りを持って国内で、そして国際的に活躍し、人が幸せに生きられる社会の持続的発展に貢献されることを重ねて期待いたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和四年三月十五日

畿央大学 学長 冬木正彦